



おとめマリアの出現の 61 周年記念に当たっての キコのメッセージ

無原罪の聖マリアの祭日 マドリードにて、2020 年 12 月 8 日

無原罪の聖マリアの祭日におとめマリアはキコ・アルグエヨに現れ、

「謙遜・素直さ・賛美のうちに生きる ナザレの聖家族のようなキリスト者共同体を作らなければならない。 相手はキリストである」

という命令を託してくださいました。

その61周年記念に当たって、マドリードでキコが話した「待降節の告知」を、「道」のすべての兄弟と分かち合いたいという望みを感じました。そのカテケージスの中で、わたしたちの共同体の意味、すなわち、これらの共同体は教会のため、また現代の世界のための聖霊の働きであり、その現れであるという深い意味を説明できるために、聖霊がキコに霊感を与えてくださいました。

わたしたちを喜ばせ、特にパンデミックのこの困難な時にわたしたちを力づけてくれるこのカテケージスがすべての兄弟に届くように、わたしたちはこれを書き起こし、そのビデオも送ります。無原罪の聖マリアの祭日、待降節、降誕節をより熱心に生き、教会とわたしたちが生きている現代社会の緊急課題に応えようとして、神がキコとカルメンを通してわたしたちの共同体とわたしたち一人ひとりに委ねられた使命をより深く意識しながら 2021 年の新年を迎えるための助けとなるでしょう。

マリオ・ペッツィ神父

さて、兄弟たち、わたしは疲れ果てていますが、主があなた方のための言葉を授けてくださるように願っています。今年は 2020 年です! 今年も終わりに近づいています。2021 年が皆のとって喜びに満ちた年となりますよう、お祈りします。まだ生きているならば、来年もまた会うでしょう。神が、ご自分の望みによって、わたしたちに聖霊を与え、わたしたちを選んでくださいました。

考えてみてください。聖霊は、わたしたちが集うことをお望みになります。そう すれば、聖霊はご自分が何であるかを示すことができるからです。聖霊は、相互愛 そのものにほかなりません。

聖霊がご自分を現すために、わたしたちが集まり、出会うことが必要なのです。 なぜなら、そうすれば、聖霊が互いに愛し合うところまでわたしたちを導くことが できるからです。そうなさるからこそ、聖霊は交わりおよび教会の創り主なのです。 愛に結ばれた教会となることは、聖霊がわたしたちの間に働かれる御業です。わた したちが集まる時、聖霊は喜ばれます。その時に、わたしたちを愛し、わたしたち のうちに留まることによって、ご自分を現すことができるし、互いの愛を与えられ るからです。

イエス・キリストが「互いに愛し合いなさい! わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい」と言われました。兄弟たち、いちばん偉大なことは、神がわたしたちを互いに結び、召し出し、わたしたちに共同体を与えてくださったということです。神は一人ひとりにキリスト教養成の道を与え、一つの使命を授けてくださり、わたしたちはその使命に引き込まれています。外から多くの人がわたしたちを見つめています。わたしたちの応えとわたしたちの信仰によって、多くの人が永遠の命、不死の命に招かれています。ですから、キリスト者であることは、素晴らしいです。なぜなら、キリスト者のうちに主が住まわれ、永遠の命が留まっているからです。「信仰によって何が与えられますか。」「心の中に、永遠の命、不死の命が与えられます!」

主はご自分の栄光に与るようにわたしたちを召し出してくださいました。主は愛であり、限りのない方であり、神なのです。ところが、ご自分の本性――自己を伝播するというあり方――をわたしたちにも与えるのは、神の心に適うことです。それ故、神は素晴らしいです。そして、わたしたちの内に留まっておられる聖霊がご自分を現し、ご自分を提示できるように、兄弟が共に集うことも素晴らしいです。主は「互いに愛し合いなさい!」と言い、そして、互いに愛し合うのに必要な聖霊を与えてくださいました。互いに愛し合うこと、共同体として集うこと、これこそわたしたちの使命です。そして、世に対しても、主はわたしたちに使命を与えられます。それは、常に愛し合い、赦し合うようにわたしたちを駆り立て、わたしたちを新しい人間、新しい次元・新しい終末論的な時代に属する人間としてくださり、

わたしたちのうちに住まわれる神のこのあり方を世にのべ伝えるという使命なので す。わたしたちは神に召し出された人間であり、神がわたしたちのうちに生きたい と望んでおられのです。聖パウロがこう言います。「生きているのは、もはやわたし ではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。」これは、わたし たち皆にも当てはまるみことばです。わたしたちも聖パウロと共に「わたしは、キ リストと共に十字架につけられています。生きているのは、もはやわたしではあり ません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラテヤ 2・19-20) と言うこと ができます。わたしにとって、生きるとはキリストです。わたしはキリストによっ て、キリストのために生きています。わたしの命はキリストです。これは素晴らし いことです! わたしも同じことが言えます。「わたしにとって、生きるとはキリス トです!」わたしがここにいるのは、そうするように主に言われたからです。「彼ら に話しなさい。わたしはあなたと共にいる。恐れることがない!」「わたしはあなた と共にいる。恐れることは何一つもない。死は勝利にのみ込まれた。わたしは死を 滅ぼし、死からよみがえった。」キリストはわたしたち人間と同じ本性をもって復活 されたのです。わたしたちは、キリストによって、死に対するご自分の勝利に与ら せていただいた人です。わたしたちはキリストと共に復活しました。キリストはわ たしたちのうちに住み、限りのない愛をもってわたしたちのうちに住まわれるのです。

神の望みは、共同体の中に、わたしたちが互いに愛し合い、互いに赦し合い、主 に従順であり、主のために生きることによってこの愛が現れるということです。わ たしにとって、生きるとはキリストです! わたしたちにとって、生きるのはキリ スト、その優しさ、何よりもそのみ旨となりますように。神のみ旨はキリストにお いて明らかになりました。それによってキリストは十字架に至るまで、わたしたち のために死ぬところにまで導かれ、そして死者の内から復活させられたのです。わ たしたちも聖霊を通して、死に対するこの勝利に与るものとされました。この霊の お陰で、わたしたちが互いに愛し合い、何にもまして神のみ旨に従うことができま す。これは、本当に素晴らしいことです! **キリストの内に**、また、キリストのた めに生きること! 聖霊により、キリストにおけるこの命はキリスト者共同体、教 会において現されます。それによって互いに愛し合うようになります。これで、異 邦人も「見よ。どれほど彼らが愛し合っていることか!」と言っていました。しか し、わたしたちは本当に愛し合っているのでしょうか。互いに大切にしているので しょうか。互いに偏見をもっているのでしょうか。それとも、聖霊がわたしたちの 内にご自分を現してくださることを許しているのでしょうか。本当に互いに愛し合 っているのでしょうか。それはどのように実現されるかというと、一つの体になる ことによってです! この意味で、共同体の集まりに参加しないことは重大な罪で す。ヘブライ人への手紙の中にあるように「集会に欠席することがないように!」 (ヘブライ 10・25 参照)。わたしたちはそうしません。わたしたちは一つの共同体を成して いて、この共同体は世に対する証、愛の証なのです。

では、兄弟たち、元気を出しなさい! わたしにとってあなた方と共にここにいるのは嬉しいことです。なぜなら、**一緒にいることによって**、わたしたちの内にお

られ、互いの愛をくださる聖霊が現れるからです。先ほど言っていたように、互い に愛し合えることは、聖霊の業です。イエスは「互いに愛し合いなさい!」と言い ながら、わたしたちがそうするように、つまり、互いに愛し合い、赦し合い、一緒 にいることを楽しめるように聖霊を与えてくださいます。わたしたちが一緒にいる と、聖霊が現れます。「見よ、どれほど彼らが愛し合っていることか!」これこそ、 キリストの教会の偉大な神秘です。ですから、共同体が与えられていることは、非 常に大きな恵みです。それによって、わたしたちに与えられた聖霊が現されるから です! その通りです。聖霊がわたしたちの内におられ、互いに愛し合い、助け合 い、一つの使命、福音宣教の使命を与えてくださる御父のみ旨に従順であるように 導いてくださいます! この使命は、時に、苦しみも伴います。迫害されることが あれば、それは、わたしたちが人々のためにその苦しみをささげられるようになる ためです! この使命は全教会とすべての人々に対する愛の使命であり、何よりも 聖霊が何であるかをわたしたちの間に現すことによって果たされる使命なのです。 聖霊は愛です!「互いに愛し合いなさい!」 それで、自分の共同体に対して愛を もつこと、共に典礼に与り、現存されるキリストを祝うキリスト者共同体の一員で ある恵みの故に神に感謝することはとても大切です。「二人または三人がわたしの 名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ 18・20)と主は 言われます。二人か三人がいれば、「わたしはその中にいる」…… ここに二人か三 人以上の人がいます。だから、キリストもここにおられるのです。キリストは、愛 であるご自分の霊を与えてくださることによってご自分を現されます。「わたしがあ なた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい!」

元気を出しなさい! キリスト者共同体に属していて、互いに愛を示し合い、神に感謝してその栄光を称え、世のため、人々のため、罪人のために執り成しをし、典礼や感謝の祭儀を通して愛である神の本性を現実に現わすことによって神に栄光を帰すために、一緒に集まることは素晴らしいことです。主は、わたしたちの救いとなるご自分の死および死に対するご自分の勝利を現実に現わす秘跡をわたしたちに残してくださり、死に対するご自分の勝利とキリストの復活に与らせてくださいます。これは素晴らしくて不思議なことです。これで、愛する兄弟たち、おめでとうございます! あなた方にはキリスト者共同体があるのです! これは本当に素晴らしいことです。

互いに愛し合いなさい。そして、聖霊を悲しませてはなりません (エフェソ 4:30 参照)! わたしたちが聖霊を悲しませるのは、互いに愛し合わず、何らかの形で互いに憎み合ったり、裁き合ったりする時です。「誰をも裁いてはならない。裁いてはならない!」 (ルカ 6:37 参照)。砂漠の教父たちは「自分のことを最後の者、誰よりも悪い者と考えなさい」と言います。あなたは誰をも裁くことなく、自分のことを最後の者、誰よりも悪い者と考えなさい! こうして、兄弟たちと一緒にいる時、「この人はわたしより善い人だ。わたしにはここにいる値打ちがない。わたしは違うところにいるはずだ。この人たちこそキリスト者だ」と思いながら、自分を最後の者と考えなさい。キリスト者であること、すなわち、キリストを身にまとうことは、本当に偉大

なことです! キリスト者たちがキリストを身にまとっているとは、彼らがイエスの死を身に帯びているという意味です。こうして、キリストが彼らの内に生きておられることも現れるようになるのです。わたしがキリストの死を身に帯びているのは、キリストがわたしの内に生きておられるということが見えるようになるためです。キリスト者はこういう人たちです。それ故、わたしたちは、いつどこでも、イエスの死を身に帯びているのです。これは、わたしたちが苦しみ、侮辱、誤解、お金の不足、そのほかどんな不都合にも喜んで耐え忍ぶことによって明らかになるのです! わたしたちにとってキリストのために苦しむのは幸いなことです。キリストのために苦しむのは非常に大切なことです。わたしたちの人生は天に書き記されつつあります。

わたしたちが天に着いたら、本が開かれます。その時、主があなたを選び、あなたに一つの共同体とカテキスタたちを与えてくださった次第が見られるでしょう。自分には人生がどのくらい残っているのか、神の元に行くまでどのくらい時間が残っているのか、わたしにはわかりません。しかし、聖パウロが言うように、「確かに死ぬのは最もよいことです。」なぜなら、死ぬとは、キリストと共にいることであり、キリストと共にいるのは確かに最もよいことです。聖パウロがこう言います。「あなた方がまだわたしを必要としているので、死ぬのは最もよいことであっても、死ぬか、それとも、まだここに留まるか、どちらが望ましいか、わたしにはわかりません」(フィリピ 1・24)。やはり、共同体は、わたしが共にいてあなた方を助けるのをまだ必要としている気がするのです。

わたしたちが皆感謝の心をもち、神に選ばれたことの故に深く感謝する心をもて ばと、主は切に望んでおられます。神は聖霊を通してわたしたちの内に住みたいと 望んでおられます。この霊はわたしたちの内におられながら、共同体の集まりに参 加し、互いに赦し合い、末席に身を置くようにわたしたちを促されます。家の中に も、家族の中にも、末席に身を置くこと、皆に仕えながら、いつも末席に着くのを 喜ぶこと! 「皿を洗いなさい」とは言いませんが、そのような奉仕をすること、す なわち、末席に身を置くべきです。あなたはキリスト者だからです。キリスト者で すよ! これは意義深い言葉です。「キリスト者」、つまり、キリストを身にまとっ た人であり、それだからこそ、どこでも末席に着くのを喜ぶ人。「自分のことを最後 の者、誰よりも悪い者と考えなさい!」あなたに、自分が本当に何者であるかとい う聖霊によるこの奥深い照らしがあれば、あなたも自分のことを最後の者、誰より も悪い者と考えるでしょう! 「自分が最後の者だ。いちばん悪い人だ。自分がここ にいる値打ちがない」と考えるという態度をもって、兄弟たちに接してください。 そうすれば、自分より優れた兄弟たちを与え、「道」を与え、カテキスタたちを与え てくださった神に深く感謝しながら、共同体の中で生きるようになるでしょう! 兄弟たち、わたしたちがここにいるのは素晴らしいことです。本当に素晴らしいこ とです。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中 にいるのである。」ここに、わたしたちの間にキリストがおられます。

キリスト教は奇跡です。神がわたしたち皆に識別を与え、それによって、わたしたちは、神が一人ひとりの上に注がれる愛に感激することができますように。神はわたしたちをご自分の限りない愛で包んでくださいました。これは言い尽くせない恵みです。これで、神は、わたしたち皆が謙遜で善い人、謙遜で聖なる人になれたらと、切に望んでおられるのです。聖パウロが言うように「相手を自分よりも優れた者と思いなさい。」皆は自分より優れています。なぜなら、自分が最後の者、誰よりも悪い人だからです。これは神のみことばであって、わたしが作った話ではありません。ここで、自分のことを最後の者、誰よりも悪い者と考えなさい。そうすれば、状況が根本から変わり、あなたと他人との関係が違うものになるでしよう。なぜなら、ここであなたは最後の者――最初の者ではなく、最後の者――になったからです。

今、わたしは話していますが、聖霊のお陰で、自分がここに最後の者、皆よりも悪い人であるという意識を心に抱くことができます。これは聖霊がわたしに与えておられる光であって、それによってわたしは、他人を自分より優れた者と考え(フィリピ2・3 参照)、自分の立場をわきまえることができます。あなたは、自分の共同体の兄弟たちを自分より優れた者と思いますか。あなたは、自分のことを最後の者、誰よりも悪い者と考えなさい。これは「道」を生きる一つの態度であり、「道」を生きる正しい態度なのです。あなたは一生高慢な人だったので、あなたにとってこのように生きるのは不可能です。確かにこの可能性もあります。何?! あなたが、自分のことを最後の者、誰よりも悪い者と考えるなんで……何の話? とにかく、神があなたに自分の罪を認めさせるために、多くの辱めを与える必要がないように願っています。そこまでする必要がないでしょう。あなたは自分のことをかなり知っていて、自分が罪人であり、ここにいる値打ちのない者であると既に知っているはずです。自分はふさわしくない者です。神があなたに共同体を与え、「道」を与え、カテキスタたちを与えてくださったのは非常に大きな恵みであり、素晴らしいことです!

愛する兄弟たち、わたしたちは互いに愛し合い、そして、教会を愛し、司教を愛し、主任司祭を愛し、自分の共同体、自分の小教区を愛さなければなりません。そして、自分の共同体、準備会の当番、今やっていること、神がキリスト者共同体としてあなた方にしてほしいことに従いながら、共同体の中で自分の信仰を生きられることを喜ぶべきです。一つの共同体となるために、主がわたしたちを選んでくださったのは、何と偉大なことでしょうか! 聖霊、すなわち、わたしたちの内に生き、わたしたちが互いに愛し合うことによってご自分を現したいと望まれる神の霊そのものが、この共同体の中に現実に現れるのです。聖霊はわたしたちの元に来られ、互いに愛し合うようにわたしたちを導いてくださいます。「わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい!」元気を出して、互いに対する愛をもちなさい。

さて、兄弟たち、わたしが主から感じることはほかにありません。あなた方が主の到来のこの時をよく生きるように願っています。主を受け入れなさい! その後に、降誕節やお正月が来ますが、それも家族と共同体と一緒に時間を過ごす機会です。神が与えてくださる使命を喜びましょう。たぶん、神があなたの共同体を召し出し、宣教へと派遣されるかもしれません。宣教に送られたら幸いだと思いますが、たぶんあなた方は宣教師になるのにふさわしくないので、神はあなたではなくほかの人を派遣されるかもしれません。あなたが宣教師、キリストの代表者になるために、主はあなたの内に住むことと、あなたがもっていない新しい謙遜な態度を必要とされるのです。「おお、キリストの聖なる謙遜、誰があなたを見いだせよう!」と、教父たちが言っていました。「おお、キリストの聖なる謙遜、誰があなたを見いだせよう!」謙遜がなければ、何もありません! ところが、あなたは少ししか、ほんの少ししか謙遜ではないのです。「おお、キリストの聖なる謙遜、誰があなたを見いだせよう!」ですから、謙遜をもって共同体に参加し、互いに使え合いなさい。あなたが結婚していれば、家族に仕え、末席に着き、末席のあるところに留まりなさい!

自分のことを最後の者、皆より悪い人と考えなさい。これは教父の言葉、貴重な言葉です。「自分のことを最後の者、誰よりも悪い人と考えなさい!」自分がここにいる値打ちがないのに、神があなたを呼び、選び、あなたの罪を赦し、ご自分の愛、ご自分の憐れみ、ご自分の赦しであなたを覆ってくださったことを思い起こしなさい。そうすれば、あなたがキリストに対して感謝と愛の心をもって自分の人生を生きるようになるはずです。聖パウロが言うように、「キリストを愛さない者がいるなら、その者に呪いあれ」(ーコリントl6・22参照)、「呪われよ。」キリストを愛すること。この意味で、このような集いは、わたしたちがキリストをもっと愛するように、助けとなるはずです。キリストを愛しなさい。キリストに対するキリスト者の愛……なぜでしょうか。なぜなら、キリストが十字架上であなたのために死に、あなたのために天を開き、陰府の門を閉じて、あなたのために天の門を開いてくださったからです。あなたが死ぬ時、あなたのために天の門が開かれるでしょう。わたしたちの肉体の死の日は、幸いな日、祭りの日です。なぜならその日、わたしたちは天に入り、そこで、聖なるおとめマリア、主イエス、聖人たち、諸聖人がわたしたちを待っているからです。

わたしたちの生き方は特別な生き方です。わたしたちはキリストの内に、キリストと共に生きるのです。聖パウロが言うように、「わたしにとって生きるとは、キリストなのです!」キリストを愛すること。聖アウグスティヌスは「愛しなさい。そしてあなたが望むことを行いなさい」と言っていました。砂漠の教父たちは「キリストを愛することは唯一の真理である。ほかの一切のことは空しい」と言っていました。キリストを愛しなさい。ところが、キリストへの愛は、どのように示されますか。考えてみましょう。わたしは何をすべきなのでしょうか。たぶんここに、誰一人としてキリストを愛する人がいなくて、ここでただ時間を無駄にしているだけであるかも知れません。「そうではないでしょう!」 あなた方がここにいるのは、神の憐れみと慈しみによるものです。神があなた方と共に宣教の偉大な業を行って

おられます。天に着いたら、あなた方はそれを見るでしょう。あなた方には子供もいるし、カテキスタとして自分に委ねられている共同体の兄弟たちもいるし、自分の小教区もあります。これこそ宣教なのです。あなた方には神が与えてくださった多くのこともあり、その愛の多くの賜もあります。神がわたしたちに要求されるのは、わたしたちが謙遜な人で聖人であること、そして、自分のことを最後の者、誰よりも悪い人と考えることなのです。

自分が他人よりも悪い人であると思うことは、とても意味深いことです。「自分の ことを最後の者、誰よりも悪い人と考えなさい!」あなたはこれが真理であると確 信しているならば、あなたの人間関係は違うものであるはずだし、あなたには高慢 な態度が全くないはずです! そう考えれば、あなたは謙遜な態度を取り、あなた が共同体にいる値打ちもないのに、あなたを耐え忍ぶ兄弟たちに感謝するようにな るでしょう。自分のことを最後の者、誰よりも悪い人と考えなさい。そうすれば、 主はあなたを祝福してくださるでしょう。この世にあって、最後の者として生きな さい。キリスト者であることはこれにほかなりません! この世にあって最後の者 として生き、自分のことを最後の者、誰よりも悪い人と考えながら、そして、自分 を赦し、共にいてくれる自分の共同体の兄弟たちに感謝しながら生きることです。 謙遜をもって互いに愛し合うのは根本的なことです。このように互いに愛し合わな ければ、キリスト教的愛がないことになります。ですから、兄弟たち、元気を出し なさい。主は限りなくわたしたちを愛してくださいます。あなた方がわたしのため に祈ってくれるように願っています。皆さんが良いクリスマスと良い新年を迎える ように、また謙遜になれるようにと祈ります。謙遜でありなさい。そして、自分の ことを最後の者、誰よりも悪い人と考えなさい。

主はあなたのためにわたしを選ばれたが、今、ほかの人のためにあなた方を選んでおられます。兄弟たち、元気を出しなさい。主が互いに愛し合うところまでわたしたちを導いてくださいますように。わたしたちが互いに愛し合えるために、主が聖霊を送ってくださいます。なぜなら、聖霊なしに、互いに愛し合うことができないからです。わたしたちの内におられ、互いの愛を与えてくださるのは聖霊なのです。「わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい。わたしの霊をあなた方に与える。霊があなた方のために十字架までわたしを導いたように、この同じ霊はお互いのためにあなた方も十字架にまで導いてくれるであろう。」ですから、元気を出しなさい。あなた方を聖なる者、神の子とし、愛するところ、互いに愛し合うところまであなた方を導いてくださる聖霊を受けなさい。

わたしたちには愛という神秘があります。神秘だからこそ、主がキリスト者共同体の中にそれを現わされたのです。多くのキリスト者には何の共同体もなく、その信仰生活は典礼や秘跡に限られていて、何をするにしても自分の信仰を個人的に生きるしかないのです。しかし、神はあなた方に共同体を与えてくださったので、あなた方がその共同体の中で互いに愛し合い、赦し合うのはとても重要なことです。「結婚生活において、何回まで妻を赦すべきでしょうか」と尋ねたきた人に、ある司

祭は「毎回です」と答えました。「何とおっしゃましたか。」「毎回。毎回ですよ。」 そして、妻も「わたしは、何回、夫を赦さなければならいのですか」と尋ねたら、 司祭は「毎回」と答えました。これがなければ、キリスト者の結婚は成り立ちませ ん。毎日、互いに赦し合うこと。裁いてはなりません。裁かないでください! 自 分のことを最後の者、誰よりも悪い人と考えなさい! わたしの言うことをよく聞 いてください。ある日、これについてあなたは問われることになるでしょう。なぜ なら、あなたはこの言葉を聞いたのに、実行しなかったからです。聞いてくださ い! 自分のことを最後の者、誰よりも悪い人と考えなさい!

そして、兄弟たちに対して新しい態度を身につけなさい。あなたは共同体にいる値打ちもないので、居ることを兄弟たちに謝って、あなたが人殺し、悪党、裏切り者、不実な者であるのに、あなたを受け入れて、認めてくれる兄弟たちに感謝しなさい。実際にわたしたち皆このような人です。明らかになっていなければ、神がわたしたちの頭から御手を取らなかったからだけです。しかし、実際に、わたしたちは皆罪人なのです。

兄弟たち、元気を出しなさい。わたしのため、この若い姉妹(アセンション)のため、この神父さん(マリオ神父)のため、そしてお互いのために祈ってくれるようにお願いします。

新年は全教会のため、また、あなた方のために必ず聖霊と恵みに満ちた年になると、わたしはローマで預言したので、ここにもあなた方のために同じことを言います。わたしが本当に預言者であれば、こう予言します。すなわち、2021 年は主のため、あなた方の家族のため、あなた方の共同体のため、「道」のために恵みと慈しみと栄光に満ちた年になることを、主はお望みになります。ですから、あなた方が聖霊の働きに自分の身を完全に委ねるべきです。